

停電経験を契機としたカテーテル室災害対応体制の構築

¹北海道循環器病院

寺田 陸夢¹、北 裕一¹、工藤 環¹

【はじめに】

日本は自然災害が多く、医療機関には災害時においても安全な医療提供体制が求められる。当院では送電線トラブルでカテーテル治療中に数十分に及ぶ停電を経験した。この経験から、災害発生時の対応手順や設備、役割分担を検証する必要性を痛感し多職種による災害時シミュレーションを実施した。

【目的】

シミュレーションを通してカテーテル室における課題を抽出し、対応手順および必要備品を整備し災害対応体制を構築すること。

【方法】

待機的 PCI 施行中に地震による停電が発生した状況を想定し、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師による多職種合同シミュレーションを実施した。終了後に課題を抽出し、必要備品の整備や対応手順の見直しを行った後、再シミュレーションを実施した。

【結果】

初回シミュレーションでは、電源確保方法、照明、患者搬送および避難体制に課題が認められた。また、非常灯のみでは照度が不十分であり、スタンド型照明およびヘッドライトを配置し、非常電源から電源を確保するための延長コードの配置場所を明示した。さらに担架搬送の実践から地震と火災では患者の搬送先や避難経路が異なり、災害の種類に応じた対応手順を整理した。再シミュレーションでは、より円滑な対応が可能となった。

【結語】

実際の停電経験を契機とした災害時シミュレーションにより、気付きにくい課題を抽出し、必要備品の整備や対応手順の見直しにつながった。継続的なシミュレーションはカテーテル室における実効性の高い災害対応体制を構築する上で有用であると考えられた。